

今日のテーマ：教皇権の増大

- ① 教皇権が増大していく過程
- ② 教皇権の増大によりもたらされた弊害

### 1. 教皇権の増大～教会改革から叙任権闘争

#### ① グレゴリウス改革前史、東西両教会の分裂

・聖職者を巡る問題

シモニア…司教職の売買

ニコライズム…聖職者の妻帯

・教皇レオ9世による教会改革の着手

→改革の志をもつ側近を集める。ヒルデブラント（後のグレゴリウス7世）を登用。

・さらに、東西両教会との関係改善にも乗り出す

→しかし、結局、東西両教会分裂に至ってしまう。

東西両教会の対立の原因

- (1) 聖霊に関する見解
- (2) 聖画像の使用を巡る見解
- (3) 軍事同盟の失敗

#### ② グレゴリウス改革、叙任権闘争

・ヒルデブラントがグレゴリウス7世として教皇に着座し、教会改革を強硬に進める

→グレゴリウス改革に反対する人々への厳しい制裁

ex.ドイツとイタリアの司教に対し免職、聖務停止

フランスでシモニア政策を進めたフィリップ1世（位1060-1108）を破門に付すと警告  
改革に反対していた人物をミラノ大司教に就かせた神聖ローマ皇帝ハインリヒ4世を非難

↓

ハインリヒはこれに反発し、ドイツの全司教を集めて、グレゴリウスの教皇廃位を宣言

↓

グレゴリウスはローマで会議を開き、マタイ16:19から、ハインリヒ4世の皇帝廃位を宣言

↓

✠叙任権闘争の勃発✠

↓

その後、形勢はハインリヒにとって不利となり、ハインリヒはカノッサ城にいたグレゴリウスに3日間赦しを乞う。教皇は破門を解く旨を伝える（カノッサの屈辱）

↓

ハインリヒはドイツに戻ると、反対派を制圧し、グレゴリウスに対して再び廃位宣言

↓

事態は泥沼化

↓

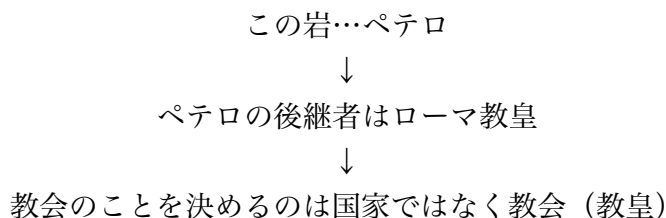
結局、国家が教会の司教の任命権に自由に口出しできる権限は大幅に制限され、教会は自

分たちで司教職の任命する権利を獲得していった

### ③ 教会の自立性と権能の範囲

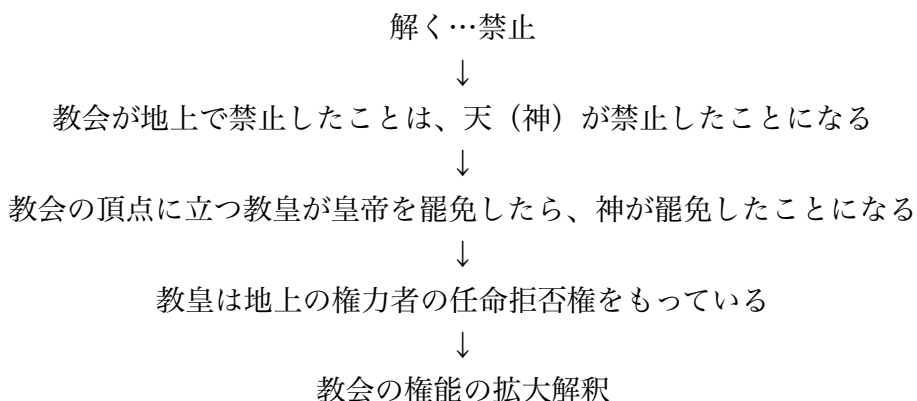
〈教会の自立性〉マタイ16章18節

そこで、わたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます。よみの門もそれに打ち勝つことはできません。



〈教会の権能〉マタイ16章19節

わたしはあなたに天の御国の鍵を与えます。あなたが地上でつなぐことは天においてもつなぐれ、あなたが地上で解くことは天においても解かれます。



## 2. 教皇権の増大による弊害

### ① 異端運動の取り締まり

5世紀（古代）…グノーシス主義、ペラギウス派

12世紀（中世）…カタリ派、ワルドー派

カタリ派	ワルドー派
善悪二元論。肉体は汚れ、霊は清い。結構制度の否定、卵・肉を食べない。厳しい禁欲主義	善悪二元論の立場には立たないが、使徒の生き方に倣って清貧の追求
教会の職制、ミサや幼児洗礼を否定。独自の典礼儀式を行う	教会権威に批判的。信仰は正統的
10の司教区と16以上の教会を有するほど拡大、組織化されましたが、次第に勢力は衰え、15世紀初頭には完全に消滅	13世紀にはイタリア、オーストリア、ボヘミア、ポーランド、ハンガリー、北ドイツにも進出し、宗教改革後はプロテスタントに受け入れられ、イタリアでは神学校も建てられた。現在もプロテスタントの一派として活動が続けられている。

異端審問…教皇が直接任命した異端審問官が行う。非公開、弁護なし、密告、拷問という手段で審理された。疑いをかけられるとほとんど有罪となり、最高刑は火刑。後に「魔女狩り」を生み出すことになった。

## ② 十字軍

- ・教会の歴史上、教皇権が最も絶大な威力を発揮したのは「十字軍」の時代。
- ・十字軍は1096年から約200年の間に行われた。
- ・最初は聖地エルサレムをイスラーム諸国から奪還することを目的に派遣された。
- ・第一回目の十字軍派遣は、ビザンツ帝国（東ローマ帝国）の皇帝アレクシオス1世（位1081-1118）が教皇ウルバヌス2世に助けを依頼したことがきっかけ。
- ・ウルバヌス2世は参加者には免償（罪の償いの免除）が与えられると宣言し、十字軍への参加は、最大の贖罪の機会であり、最高の巡礼だと説明した。
- ・十字軍はコンスタンティノポリス、アンティオキアへと東に進み、最後はエルサレムに到達。守備隊だけでなく、多くの市民が犠牲となり、女性は陵辱され、子どもたちも殺され、市内にいたユダヤ人はシナゴグに閉じ込められて建物ごと燃やされた。
- ・十字軍は1270年まで8回結成されたが、当初の目的を果たしたのは第一回目と二回目。
- ・1291年までには元どおりイスラーム教徒に奪い返された。
- ・第4回の十字軍を率いたのはインノケンティウス3世で、教皇権絶頂期と言われる。
- ・この時の十字軍は、東方教会の首都であったコンスタンティノポリスを征服し、そこにラテン王国、ラテン教会を設立し、東西両教会を勝手に再統一しようとした。
- ・この十字軍は、東方の人々の心に西方に対する癒しがたい憎悪感を植え付けることになった。
- ・十字軍は、キリスト教徒とイスラーム教徒の間に、また、西方教会と東方教会の間にも、不信感と敵意を増幅させることになった。東西の文化交流という側面もあった。